

福祉 ちば

No.143 2008.10.31 発行



年の差60歳!?

でも、素敵なお友達になりました。



地域の福祉、
みんなで参加

赤い羽根
共同募金

「リーチ、リーチ!」「ビンゴ!」。会場のあちこちから、小・中学生やお年寄りの元気な声が飛び交い、「あー残念!」「ここさえ開けばビンゴなのに」など会話も弾んで笑顔、笑顔の大盛り上がり…。

これは、佐倉市立佐倉小学校で開かれた佐倉東部地区社協の「敬老会」的一幕。子供たちにとってお年寄り、総合学習の授業で伝承遊びや地域の文化財のことを教えてくれる〈先生〉ですが、今日は楽しいことを第一にした、遊びふれあう1日。

ほぼ60歳以上の年の差も忘れて、語り合い、喜んだり、残念がったりしながら、地域のおじいちゃん、おばあちゃんと素敵なお友達になったひとときでした。(詳しくは、2~3ページをご覧ください)



福祉教育 特集

学校と地域で取り組む

“心を育む教育”

学校の授業の一環として、地域の方たちからふるさとの歴史を学んだり。一方で、地区の敬老会に小・中学生がボランティアとして参加し、お年寄りたちと楽しく交流したり。こうした“ふれあいの場づくり”に、学校と地域の人々が心を合わせて取り組んでいます。わが街の未来を担う子どもたちに「心が通い合う地域社会を築いていける大人に!」との願いを込めて…。

自然体でおじいちゃん、おばあちゃんと交流

佐倉市立佐倉小学校

地域の人はみんな“先生”

佐倉市には、印旛沼などの恵まれた自然とともに、城下町として栄えた豊かな文化があります。こうした佐倉の自然、歴史や文化を学ぶのが“佐倉学”です。

市立佐倉小学校（平山健一校長・児童数625名）では、まちの〈宝物〉を子供たちにしっかり手渡したいと佐倉学を授業に取り入れ、史跡訪問などを行っています。先生役は、文化財をガイドしているボランティアの方たち。「当校には、福祉教育を掲げたカリキュラムはありませんが、地域の方たちとの交流は当たり前のこととして、授業に盛り込んでいます」と平山校長。

学校にほど近い中央公民館との交流も、児童たちにとって地域の人々とのふれあいの場です。公民館主催の生涯学習「むかしの遊び」のクラスに1年生が参加。年2回、地域のお年寄りから、お手玉やコマ回し等の伝承遊びを教えてもらい、楽しい時間を共有しながら多くを学んでいます。

また児童が安心して通学できるように、温かく見守ってくれるのも地域の方たちです。5年前から地域住民の有志が登下校の時間帯に見回りを実施。「おはよう!」「気をつけてね」と交わす何気ない挨拶も、大切なふれあいの一コマです。

更に今年度は新たな試みとして、車いすバスケットボールチーム「千葉ホークス」のメンバーを招き、話を聞く授業も予定されています。実施されるのは、年末か来年初めになるとのこと。事

前には車いすの疑似体験を授業に取り入れ、感想文などによる事後学習にも力を入れていきたいと考えています。

会場は笑顔でいっぱい

9月15日、佐倉小学校の体育館で行われた「佐倉東部地区敬老会」（佐倉市、佐倉市社会福祉協議会、佐倉東部地区社会福祉協議会主催）には、今年初めての試みとして6年生10名がボランティアとして参加しました。招待されたお年寄りを席まで案内したり、お茶を用意したりと大活躍。「おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らしているけど、初対面のお年寄りとお話するのはちょっと緊張」「ありがとう」と言われた時に嬉しかった」とボランティア体験を楽しそうに話す児童たち。

式典の後のお楽しみプログラムでは、合唱部の児童たちが元気の歌声を披露。地区内の佐倉東中学校ブラスバンドもパワフルな演奏で会を盛り上げ、その後、高齢者とふれあいました。

そしてこの日の最大イベントは、ビンゴゲーム。お年寄りとお年寄り、肩を寄せ合ってゲームに参加。「今度はここに穴をあけるんだよ」という児童のアドバイスに、ニコニコ顔で領くお年寄りたち。会場にはいっぱいの笑顔がこぼれていました。

東部地区敬老会では、昨年まで中央公民館を会場に開催してきました。しかし今年より“地域密着型”をめざし、佐倉小学校、佐倉東小学校、白銀小学校の地区内3校に会場を分散。この日、佐倉小学校会場には、75歳以上のお年寄り約80名が参加しました。



「ここが開けばねえ…」盛り上がるビンゴゲーム
(佐倉東部地区社協・敬老会)



会場を訪れた方を児童がエスコート



童心に帰って「カルタ取り」



学校給食を試食…「ほのぼのランチ」(佐倉市立南志津小学校)

夏祭りや秋祭りにも積極的に参加

佐倉市立南志津小学校

お年寄りとのふれあい給食

佐倉市立南志津小学校（堀内祐司校長・児童数278名）では、日頃から様々なカタチで児童が地域の方たちと交流しています。年1度、6年生がひとり暮らしのお年寄りを給食に招待する「ほのぼのランチ」もその一つ。毎回、10名ほどのお年寄りが参加。この日のために児童は、趣向を凝らしたプログラムを用意。落語の『寿限無』をリレー式で熟演したこともあり、大好評を博しました。今年は5月30日に開かれ、学校給食を味わいながらふれあいのひとときを過ごしました。

6年生の「デイケアサービスくつろぎの里」の訪問や、4年生の「四街道老人ホーム」の見学も年に1度行っています。事前学習や事後学習にも力を入れ、くつろぎの里への訪問前には、車イスやアイマスクなどの高齢者疑似体験を行い、お年寄りの立場を理解できるよう準備を進めます。

また、日頃からお世話になっている地域の方たちを学校に招待する「秋祭り集会」も大切なイベント。招待するのは、登下校を見守るスクールガードボランティアや、運動会で踊る佐倉音頭の指導にあたる地域の方等。校内には各学年の畑があり、サツマイモを栽培。収穫したてのサツマイモはおみやげに持ち帰ってもらうほか、PTAの協力で作られるこの日のご馳走、豚汁の材料にも、みんなで味わう豚汁の味は絶品です!

10年前から子供たちが敬老会に

地域イベントへの児童の参加も多く、6月のクリーン作戦も参加します。夏祭りや、秋祭りのミュージックフェアでも、金管クラブが大活躍。文化祭には、児童の作品も展示されます。

志津南地区敬老会（佐倉市、佐倉市社会福祉協議会、志津南地区社会福祉協議会主催）にも、10年前から地元の園児・小・中学生が参加。お年寄りと一緒に交流しています。今年は、9月15日に南志津小学校の体育館を会場に開かれました。

式典では、南志津小6年の岡崎未来（みく）さんが敬老作文を朗読。最近、同居を始めた祖父母との楽しい暮らしぶりを、エピソードを交えて紹介しました。リフレッシュ体操で身体をほぐした後は、演芸プログラムに。毎朝、授業前に練習を重ねている南志津小金管クラブは、「蕾」「BON COURAGE!!」を立派に演奏し、志津わかば幼稚園園児の合奏には、客席から「可愛いねえ」の声があふきました。下志津小児童による合奏や和太鼓演奏、上志津中吹奏楽部の演奏、昨年からの試みとして小・中学生による合同演奏「Believe」も宴を盛り上げました。

また、上志津中3年生の約10名が、ボランティアとして参加し、履き物の整理、案内係、お茶係等を担当しました。また、敬老会には、75歳以上のお年寄り343名が参加。今年から新たに上志津原の原トピアにも会場が設けられ、66名が参加しました。

こうした地域との連携を支えているのが、上志津中学校区の地域推進会議です。メンバーは地区社協、自治会、民生児童委員、地区内の小・中学校3校から校長先生、教頭先生はじめ各4名、PTA会長・副会長が参加。年3回会議を開き、知恵を出し合っています。

「地域の方に学校にいらして頂き、子供たちも地域に出て行く。周辺の団地は、地域の組織がしっかりしているため連携も取りやすいのです」と教頭の前田克彦先生。「高齢社会を迎え、お年寄りをはじめ誰でも温かく交流できる子供に育てて欲しいですね。地域ぐるみの学校づくりが、理想的なカタチで進んでいると思います」と堀内校長は、福祉教育の成果を話しています。

「そこに子供がいるだけで元気になる」

◆佐倉東部地区社会福祉協議会会長 河原元雄さんの話＝ビンゴゲームを始めたのは、4年前から。子供と一緒にいるだけで、お年寄りには笑顔が生まれて盛り上がるんです。私たち大人がいくら頑張っても、子供たちにはかないません。3年前から、歌や演奏も小・中学生にお願いしています。学校とは、もちつき大会やグラウンドゴルフなどの会場にお借りする機会も多く、日頃から親しくお付き合いさせて頂いています。

日頃から学校と親しく交流

◆志津南地区社会福祉協議会会長・佐藤正昭さんの話＝敬老会に子供たちにも参加してもらおうと、そのお父さんやお母さんにも関心を持ってもらうことができます。お年寄りも、お孫さんが演奏をするということで、自然に会場に足が向きます。日頃から地域と学校との交流は盛んで、ほのぼのランチも地区社協と学校行事との連携によるものです。

新しい“地域福祉”を担うボランティア確保へ 地区社協、企業、団体に一層の働きかけ



君津市
ボランティアセンター
の主な事業

1. 登録・斡旋と相談
ボランティア活動をしたい人やグループの登録・斡旋、相談
ボランティアを必要とする人や施設からの相談
2. 活動への援助
福祉情報、資料の提供
機材の貸し出し
(ビデオ、書籍、アイマスク、疑似体験セットほか)
3. 講座・研修会の開催
ボランティア養成講座の開催
ボランティアリーダー研修会の開催
4. 調査・研究
ボランティア活動に関する調査・研究
5. ボランティア保険への加入
6. 収集
ロータスクーポン、古切手、使用済みテレホンカード、プルタブ、書き損じはがき等



さあ、あなたも一歩、ふみだしてみませんか？——行政、社会福祉協議会をはじめ、ボランティア、NPO 法人、保健、医療に関係する諸団体、企業、商店、警察、消防も含めて、市民ぐるみで連携・協働して築く「地域福祉の時代」。

君津市では現在、これまでの福祉の枠を超え、〈市民活動〉の視点から新しい〈地域福祉〉を進める体制づくりを準備中。君津市ボランティアセンターとしても、その体制の一翼を担うボランティアの確保、育成に懸命の取組みをしています。

■登録ボランティアは個人101名、57団体

君津市社会福祉協議会君津市ボランティアセンターは、平成2年に開設され〈ボランティア活動をしたい人〉、〈ボランティアを必要とする人〉の中心拠点として登録、斡旋、相談をはじめ、福祉資機材の貸し出し、ボランティア養成講座の開催などの事業を行ってきました。

登録されているボランティアは、個人101名、57団体あり、この中には、芸能、音楽による施設訪問、各種イベントの際や病院・福祉施設での手伝い、点訳、手話、読み聞かせ、一人暮らしの高齢者への傾聴や病院、役所等への移送（運転）のほか、最近は悪質商法の予防活動、太巻き寿司づくり、うどん打ち、炭焼き体験といったユニークなボランティア団体も登場する等、市民活動に近い内容も増えつつあります。

■傾聴ボランティア養成講座を開催

傾聴は福祉サービスを提供する上で不可欠の援助だと言われていますが、公的制度の中では十分な対応が難しく、施設や在宅において、傾聴ボランティアに対する期待が高まっているところ。このため、君津市ボランティアセンターでは、傾聴ボランティア育成への取り組みとして「養成講座」を開催、その修了者を中心に組織づくりに努めています。

傾聴ボランティアは、個人宅、福祉施設、病院等〈話し相手〉を求めている高齢者がいれば、どこへでも出向いていきます。

また、視覚障害者向けの音訳テープの貸し出しは、市の広報紙、社協の広報紙の他、新聞や小説等常時50本を用意。

ボランティア発掘、育成に全力!!

■松尾昌代・君津市社協地域福祉係兼ボランティアセンター主任主事の話 = 景気の低迷、ボランティアの高齢化、現代人のライフスタイル等、色々な理由や、背景は考えられるでしょうが、ボランティアのなり手、特に若い世代のボランティア参加が少なく、地域福祉を進めていく上での大きな課題です。

特に移送ボランティアは、数年前まで10名程いたのに、高齢化や「仕事が忙しくなって」等を理由に辞めていき、現在は3名のボランティアに支えられているのが実情です。

現在、市と社協の間で〈地域福祉〉を大きな枠組みで考えていく「市民活動センター」の開設に向けて協議中で、それが実現すると、その担い手としてのボランティアの役割もさらに重要になります。今後は、企業関係や市内8つの地区社協のご協力を頂き、また若い世代への呼びかけを続けて、ボランティアの発掘、育成に一層力を注いで〈地域福祉〉の実現に努めていきたいと考えています。

録音機材や録音室の貸し出し、対面朗読のスペースも確保しており、利用者、ボランティア双方から喜ばれています。

■ピンチです、移送(運転)ボランティア

君津市は、千葉県下2番目の面積を持ち、市街地は国道127号線沿いにある、新日鐵君津製鐵所の社宅団地やその関連企業の従業員住宅等を含めた地域で、その他は農山村地帯という地形。交通機関は、市街地を縦貫するJR内房線と市街地と山間部を結ぶJR久留里線。その他に路線バスと市が運営するコミュニティバス(4コース)があるものの、それでも市域が広大なためカバーしきれず、高齢者から「通院、買い物、市役所への用事、墓参りなどに運転ボランティアの派遣をお願い!」といった声は増える一方です。

交通事故等のリスクの高い活動ですので人材確保も容易ではありませんが、ニーズに応えるために運転ボランティア募集のPRや養成講座の開催に力を注いでいます。

■「相手の立場に自分を置き換えてみる」

ボランティアセンターに常駐して、ボランティアの派遣を求めるとボランティア活動をしたいという人のマッチングをしているのがボランティアコーディネーター。現在センターには2名が配置されていますが、共通した心構えは「相手の立場に自分を置き換えてみる」「アドバイスをしながら、それが自分にもできるか——を常に自分に問うこと」。

現代の若い世代の考え方とのギャップも悩みの一つ。そんな時は、「とにかく謙虚になって…」と語っています。願いは「若いスタッフをせめて1名増員して…」です。

「日本国内のボランティア事情を知りたい!」にこたえて

韓国済州特別自治道から視察団

日本の都道府県段階のボランティア・市民活動の振興策を知りたい——と、7月29日に韓国済州特別自治道から4名の視察団が千葉県ボランティア・市民活動センターを訪れました。

済州道は、韓国国内で「自立と責任、創造性と多様性を土台に高度に自治権を付与された地方分権モデル道」と位置づけられており、今回の視察は、住民参加のあり方や発展方策を模索する目的での来日で、当センターでは、①県内のボランティア団体の現況、②認証制度、③事故等の補償、④県・市による支援方策等について千葉県の実情を説明しつつ意見交換を行いました。次いで、一行は佐倉市社協のボランティアセンターも訪問しました。

民族や文化的背景、政治や社会福祉の制度的な事情は違っても、社会的な潮流として、地域社会の維持・発展に住民活動が求められる背景等、共通の事情も伺え、「今後の千葉県のボランティア振興策」を考えるうえでも有意義なひと時でした。



日韓両国の旗を飾り、すべて手作りでお迎え
皆様もお気軽にお立ち寄り下さい!

連絡会、成田市社協が受付や派遣業務

「八都県市合同防災訓練」で 災害ボランティアセンターを 設置・運営

震度6強の直下型地震発生を想定して、8月30日、31日の両日、「八都県市合同防災訓練」が開催され、本県では成田市を舞台に「千葉県会場」の訓練が行われました。

今回の訓練では、千葉県災害ボランティアセンター連絡会(県内の14団体により構成。事務局は千葉県社会福祉協議会、日本赤十字社千葉県支部)及び成田市社会福祉協議会が、それぞれ災害ボランティアセンターを設置し、市内3カ所に設置される避難所で活動するボランティアの受付、派遣業務等を担当しました。

連絡会メンバーは、センターの設置と同時に先遣隊を成田市災害ボランティアセンターに派遣し、被害状況や県災害ボランティアセンターへの依頼事項などの情報収集をしました。その後、先遣隊が収集した依頼内容に基づき、60名程度の連絡会メンバーを調整し、成田市災害ボランティアセンターへ派遣しました。情報提供の部分では、実際に連絡会のホームページを活用し、被災地以外の県内市町村社協や全国に向けての情報発信の訓練も行いました。



安心を支えます ボランティア活動保険

ボランティア活動中のケガや賠償事故を補償



- 特長**
- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
 - 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償
 - ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
 - 地震等天災によるケガも補償(天災タイプ加入の場合)

保険料(掛金) Aプラン...260円 Bプラン...420円 Cプラン...590円
天災危険補償タイプもあります。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティアに関する行事におけるケガや賠償事故を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償!

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故等によるケガを補償!

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
http://www.fukushihoken.co.jp

<引受幹事保険会社> 日本興亜損害保険株式会社

11月11日は介護の日!!

人それぞれの違いに応え、信頼関係を築く 福祉の仕事は、楽しさ・やりがいがいっぱい!!



ローゼンヴィラはま野の今井美樹さん



〈今井さんの1日のスケジュール〉

- *現在、子供が1歳5ヵ月なので、育児短時間労働期間中です。
- 9:15～ 出勤。入居者の健康状態等を書類で確認。
- 9:30～正午 入浴介助。
- 正午～13:00 食事介助、口腔ケア、トイレ誘導。
- 13:00～14:00 休憩。施設の昼食を食べながら少しゆったりする。
- 14:00～17:00 おやつ介助、レクリエーション、排泄介助、トイレ誘導
- 17:00 帰途につく。

待遇面から、とかく敬遠されがちな介護職ですが、それでも「常に学びがある」「苦労もあるが大きな喜びや感動がある」「人間として大きく成長できる」と、介護の仕事に「やりがい」と「魅力」を感じて、頑張っている若い世代が大勢います。

千葉市にある特別養護老人ホーム「ローゼンヴィラはま野」に勤務する介護福祉士・今井美樹さんを訪ね、その仕事内容、やりがい、思い、将来の夢などを語っていただきました。



もあり、無事にやってこられました。

「あんたがいてくれてよかった!!」

■介護の仕事に就かれたキッカケからお話ください。

私が小中学生だった頃、祖父が入退院を繰り返して、母と祖母が足や頭を洗ったりしているのを見て私も手伝ったら、とても喜んでくれました。そのことがキッカケで、福祉に興味を持ちました。

高校生になって進路を考えた時、迷わず「福祉の仕事」と決め、千葉県内の福祉系短期大学へ進学しました。卒業と同時に介護福祉士の資格を取得し、〈ローゼンヴィラはま野〉に就職したのです。

■仕事にやりがいを感じるの、どんな時ですか？

入居者の方がポロッと「今日はあんたがいてくれてよかった。安心した」と言ってくれた時です。私のことを信頼してくれている——と思いき嬉しくなりました。また、自分が企画した行事でみんなが喜んでくれたときなども、「やってよかった!」と充実感を感じます。

■仕事の難しさを感じるの、どんな時ですか？

日々、難しさや壁を感じています。入居者一人ひとりの性格や歩んできた人生も違いますので、望んでいることも異なります。ですから、一人ひとりについて情報を集めて、個別に対応し、信頼関係を築いていくことを心がけています。

答えは、入居者自身にしか分からないのですが、とにかく喜んでもらえること、ご入居者に寄り添うことが大切ではないでしょうか。

当事者の立場に立って多くを学ぶ

■妊娠が分かった時、何か不安がありましたか？

妊娠中はつわりがひどく、仕事に具合が悪くなったことが何度もありました。いっそ辞めようか——と思ったこともありますが、でもこの仕事が好きだから、なんとか出勤してしまうんですね。育児や産休等の職場の制度を活用できる環境や、先輩のサポートや励まし

■産休、育児休暇を取った後、職場復帰されて半年とのことですが、体調などはいかがですか？

最初は、体力面で不安がありましたけど、子供をせせと散歩に連れて行ったりして自分の体力もつけ、復帰への準備をしました。上司は子育て経験のある方なので、色々相談に乗ってくれましたし、入居者の方々からも気遣ってもらったり…。感謝、感謝です。

■日頃心がけていらっしゃることは、どんなことですか？

実は妊娠中に体調を崩し、1ヵ月半入院生活をしました。「動いちゃいけない」といわれ、1日中ベッドの上で過ごしましたが、単調で退屈で困りました。言葉では知っていても、実際に体験すると随分違うことを痛感し、これまで入居者の方々にしてきた私の介護は、本当に適切だったのか——と反省させられました。入院生活で、サービスを受ける側の当事者になって、人間として少し成長できたと思います。自ら入院経験を経たことで、復帰後は、もっときめ細かな介護を——と心がけています。

■これからの目標は？

勉強して、ケアマネジャーの資格を取りたいですね。夫にも協力してもらって、仕事と子育ての両立を目指したいです。また、妊娠・出産に際してサポートしてくれた先輩への感謝の気持ちを、今度は私が後輩たちをサポートすることで返したいです。

■就職に悩んでいる人たちに何かメッセージを。

一言でいうと、介護とは、苦労もあるけど、その分喜びや感動のある仕事。日々学べる仕事でもあります。福祉関係の職場を考えている人、また今は違った職種に就いていても、興味や関心がある人は、一度介護の仕事に飛び込んで欲しいと思います。

※厚生労働省は、介護についての〈理解〉と〈認識〉を深め、介護従事者・介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者・家族・介護従事者——等、それらを取り巻く地域社会における新たな支え合いや交流促進を図っていく観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関して、国民への啓発を重点的に実施するため、11月11日を〈介護の日〉と決めました。

千葉県の 福祉人材確保に関する 緊急提言を堂本知事に提出

県社協の早川会長と田邊副会長は、県内12団体を代表して8月25日(月)に堂本千葉県知事を訪ね、福祉人材の確保に向けて、早急に対策を講じるように要望しました。

県内の福祉、介護サービス現場は、慢性的な人手不足に陥っていることに鑑み、「千葉県の福祉人材確保に関する緊急提言」として取りまとめ

- ①福祉人材確保に関して、分野横断的に取組むべく「福祉人材確保定着に関するプロジェクトチーム」を組織化し、福祉人材確保に全県民を挙げて取組む仕組みをつくること。
- ②福祉・介護の仕事・職場に対する理解を深め、イメージアップを図るための戦略的な広報活動を展開すること。
- ③千葉県福祉人材センターとの連携を強化し、福祉職場への就労支援の充実や職員の定着対策、潜在福祉人材の就労促進などの福祉人材の確保対策の充実・強化を図ること。
- ④次代の福祉人材の確保に向け、児童・生徒等に対する福祉教育の充実を図るとともに、団塊の世代等の福祉分野への積極的な参加を支援すること。
- ⑤福祉人材のキャリアアップを図るための研修のあり方等について、検討すること——の5項目にわたって対策を要望しました。

堂本知事は、要望に対し早速「千葉県福祉人材確保・定着対策本部」を8月28日に立上げ、今後の福祉・介護人材の確保・定着に向けた取り組みを推進していくこととなりました。



堂本知事に提言書を手渡す県社協早川会長

福祉サービスへの 苦情を解決します!



●千葉県運営適正化委員会の行う苦情解決事業の現状

千葉県運営適正化委員会では、児童・高齢・障害等広く福祉サービスに関する利用者本人・家族等からの苦情を受け、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、大学教授、弁護士、医師等の専門職で構成された苦情解決部会委員と連絡を取りながら、「事業者との調整」や「話し合いの場の設定」、「改善申し入れ」等、その解決に向けた取り組みを行っています。千葉県内における苦情の受付件数は、年間100件を超えています。中でも高齢者分野、障害者分野に関する家族からの苦情が多くなっています。

苦情の内容としては、「提供されている福祉サービスの質や量に関すること」が30%、次いで「サービス提供に際しての職員の姿勢・接遇に関するもの」が20%を占め、解決の方法としては「相談・助言によるもの」が40%、「その他(事業所に対し改善申し入れを行ったものや事業所との調整を行ったもの等)」が40%という状況でした。また、千葉県運営適正化委員会としての平成19年度の苦情の取り扱い状況は下表のとおりです。

平成19年度の苦情受付件数及び解決の方法

	相談・助言	紹介伝達	あっせん	通知	その他	意見要望	継続中	合計
19年	48	10	0	0	43	6	2	109

なお、社会福祉法は、福祉サービス事業者に対し、「利用者からの苦情に適切に対応すべき」旨を規定していますが、これを受け福祉サービス事業者は、各々事業所内部に苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員の設置等、「苦情解決の仕組み」を構築することが併せて求められています。

運営適正化委員会の行う苦情解決事業は、こうした事業者内部のサービス改善に向けた取り組みと相まって、福祉サービスを利用している方々の権利を擁護するとともに、利用者が安心してサービスを利用できるよう、福祉サービスの質の向上に努めることを目的としています。

「現在受けている福祉サービスの内容に不満」、「職員の態度・姿勢に戸惑っている」等がございましたら、遠慮なくご相談ください。

■お問い合わせ先／千葉県運営適正化委員会
TEL. 043-246-0294
FAX. 043-246-0298
E-mail. support@chibakenshakyō.com

みなさん、「生活福祉資金」をご存じですか？

社会福祉協議会では民生委員と連携して、比較的所得が少ない世帯・障害者の世帯・高齢者の世帯に対して「生活福祉資金」の貸付をおこなっています。

【資金種類(例)】出産費、葬祭費、転宅費、福祉用具購入費、障害者のための自動車購入費、住宅の増改築または改修のための資金、高校・大学・専門学校等の修学費および入学の際の支度費、療養費、介護等費、被災した際の再建資金、技能習得のための資金、緊急小口資金、離職者支援資金、長期生活支援資金等

※貸付条件(貸付対象、貸付限度額、返済期間、利子、連帯保証人の有無等)は資金種類ごとに異なります。
※貸付制度ですので返済の義務があります。なお、貸付審査の結果貸付に至らない場合もあります。

資金についての相談窓口／お住まいの市区町村社会福祉協議会または民生委員へご相談ください。
千葉県社会福祉協議会 ☎043-245-1551

あなたに“還る家”がありますか？



子ども家庭教育フォーラム代表
教育・心理カウンセラー
富田富士也氏

合理主義、効率主義、成果主義が横行する現代社会——。子供から青少年、中高年、高齢者にいたる多くの日本人が「コミュニケーション不全」に陥っている。それを克服するには、人間を数値で評価する考え方を捨て、「せめぎあって、おりあって、おたがいさま」の関係を築く努力が不可欠——と語る「子ども家庭教育フォーラム」（松戸市）の富田富士也代表。

不登校や引きこもり、家庭内暴力、職場でのストレスによるうつ症状、子育ての悩み、高齢者の孤独などのカウンセリング、また全国各地での講演活動、少人数でのワークショップを通じて、「還る家づくり」「心の通う人間関係づくり」の大切さを訴え続けています。

「この社会、どこがおかしい」

富田代表が「この社会、どこがおかしい」と気付いたのは、ある出版社に勤めていた24歳の頃。仕事に満たされぬ思いから市民運動に係わり、そこで不登校の子に出会ったのです。

当時わが国は、高度経済成長のさなかにあり、共働きが一般化したつつある時代。特に一家の担い手である男性は「働き蜂」(会社人間)を自ら認め、家庭をかえりみる暇などなかった時代。その家庭崩壊の中で、子どもたちの不登校、引きこもりなどが多発し、富田代表も強い関心を持ち、独学で研究を始めました。

以来、35歳のときに「コミュニケーション不全」をメインテーマにカウンセリングを本業とするようになり、「引きこもり」を問題提起し、保育カウンセリングの重要性を提唱。45歳を過ぎてからは、定年退職後に地域で何かやろうとしても、まったく勝手が分からない——という団塊の世代を中心に、「老い」の問題を扱うようになりました。

父が一緒に夕食は、会議みたい!!

企業戦士として働き詰めの日々を過ごし、立派な家を建てたものの、それは「ハウス」でしかなく、心の通い合う家庭としての「ホーム」ではなかったということ。この典型的なエピソードとして——。

ある日相談室に父親と息子が訪れ、息子の方が「夕食にお父さんがいて話をすると、会議みたいになってしまう。それがムカつくんだよ」という。父親は、その言葉の意味が最初分からない様子で、子どもの方は、おそらく家族一人ひとりの弱さを包み込んだ空間としての「家庭」を求めているのに、父親の方は常に結論を出そうとしていたと思われる。

しかし、何回目かの相談のとき、その父親は自分の気づきを、「私は、会社での仕事と同じように目的優先で、言葉にばかり気を取られていた。長く「仕事人間」でやってきて、生身の人間としての感

性が錆びついてたんですね」と吐露しました。

「錆びついたら、磨けばいいじゃないですか」。富田代表が面談の最後に贈った言葉でした。

この他、「勉強への意欲と学歴さえあれば、将来は何も心配ない」と語る父親の話、「父親の関心は、わが子のテストの成績だけだったような気がする」との母親の述懐など、コミュニケーション不全、人間関係の喪失、家庭崩壊ともいえるべき、多くのケースを扱ってきたといいます。

合理主義、成果主義を反省すべきとき

最後に富田代表は「コミュニケーション不全、人としての関係性の喪失、引きこもりなどは、最近特に顕著になっていると思う。このままでは「1億総引きこもり」(人間関係喪失)になってしまうのではないかと——。それは厳しい社会経済情勢を反映して一層合理主義、効率主義、成果主義が強化されていることも一因。これを反省し、今こそ、よき時代の人間関係を取り戻す努力をすべきとき。そのためには、プロ化したカウンセラーではなく、日常生活の中から生まれたカウンセラーが必要——。」と語っています。12月13日(土)に、松戸市の相談室にて「カウンセラーになるため」の研修を予定。(お問い合わせ先TEL047-394-6000)

■富田富士也氏プロフィール=1954年(昭和29年)静岡県御前崎市生まれ。1985年にカウンセラーとして独立。「子ども家庭教育フォーラム」での相談業務を中心に、講演や執筆活動などの多方面で活躍。

現在、子ども家庭教育フォーラム代表、文京学院大学生涯学習センター講師、日本精神衛生学会理事、外来精神医療学会常任理事、日本学校メンタルヘルス学会運営委員を務める。『還る家をさがす子どもたち』(東山書房)、『縁・愛・願』(北水)、『お父さん、お母さん、こっち向いて』(本願寺出版所)など著書多数。



富田富士也氏の著書

「自然の中の宿」久留里荘をご利用ください。

※永年ご愛顧頂きました久留里荘は、平成21年3月をもって廃止させて頂きます。



〈宿泊料〉消費税込				
利用者区分	宿泊料	食料		合計
		朝食料	夕食料	
60歳以上の方	2,920円	830円	2,070円	5,820円
一般利用の方	3,830円	870円	2,170円	6,870円
小学生	2,920円	830円	2,070円	5,820円
幼児(4歳以上)	1,460円	実費	実費	1,460円+実費
幼児(4歳未満)	無料 (布団不使用の場合)	実費	実費	実費

〈休憩料〉消費税込		
利用者区分	休憩使用料	
60歳以上の方	お一人様1日	700円
一般利用者	お一人様1日	1,050円
小学生	お一人様1日	620円

久留里荘

〒292-0434 千葉県君津市向郷1632 TEL 0439-27-3180 FAX 0439-27-2776 <http://park21.wakwak.com/~kururisou/>

編集後記



理想は磯野家(サザエさん)の食卓!?

テレビアニメの「サザエさん」には、家族全員で食卓を囲みながら談笑し、まさに“家族愛”を象徴している1コマがありますが、最近では家族全員で食卓を囲まず、一人食事を摂る(孤食)が増え、食を通じた家族のコミュニケーションの時間が減っていることが様々な所で問題視されています。

一家団らんの食事は、常に“会話”というコミュニケーションツールを通じて、親は家庭外での子供の様子を知り、子供は親から社会的ルールやマナー等を、ごく自然な形で知ることができましたが、引き続き社会環境の変動や核家族化の進展などにより、家族一人ひとりの過ごし方や価値観が多様になってきた為、現在では(孤食)が当たり前の様になっています。

一家団らんの時間が減り、子ども達が社会的ルールやマナーを学ぶ機会が少なくなった結果の1つとして、「未成年者による犯罪」の増加などが起こっていると様々な所で指摘されています。(孤食)が子供達の心にどんな影響を与えるのか——真剣に再考していかねばならない問題になってくるのではないかと思います。(安藤)